

第2回原野谷学園新たな学園づくり地域検討委員会 概要

日 時	平成30年1月29日（月）19:00 ～ 20:30
場 所	原野谷中学校図書室
出 席	委 員 16人 事務局 教育長、教育部長、企画政策課長、学務課長、 学校教育課主席指導主事、学校教育課主任指導主事 教育政策室長、教育政策室係長、教育政策室主任、教育政策室指導主事
内 容	
<p>1 開 会</p> <p>2 教育長あいさつ</p> <p>3 委員長あいさつ</p> <p>4 報告事項</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) 第1回地域検討委員会について</p> <p style="margin-left: 40px;">※事務局より説明</p> <p>5 協議事項</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) 第1回地域意見交換会における意見等について</p> <p style="margin-left: 40px;">※事務局より説明</p> <p style="margin-left: 40px;">※質疑応答</p> <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換会を聞いていて、参加者により温度差があると思う。今までの学校のままだ方がいいという意見、小学校を統合させた方がいいのではないかという意見、そして、中学校の統合も考えているのかという意見があり、一貫校ありきという話として考えられているからわかりにくい。なぜ一貫教育なのか、その課題や問題点など丁寧に説明いただくと良いと思う。 <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これから子どもを学校に通わせる保護者の方に参加を促すように考えてもらいたい。 <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もし、小中一体校をつくる場合、掛川市の方で何年後を想定しているのか。それがわかると自分の子は関係があるのかと保護者は考えやすい。また、教員にとっても準備の時間が必要ではないか等の意見が出るのが予想される。 <p>【委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この検討委員会はその方向性を固めていくという面があり、検討委員会で一体校をとということになれば市も動き出すのでは。 <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この検討委員会での意見を見ながら考えていきたいと思っている。具体的に何年度にこうというのは、現時点では想定していない。 <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検討委員は承知できるが、地区に住んでいる保護者は、スケジュールがわからないというのは現実的な話ではないと捉えられてしまう。 	

【委員長】

- ・いつ一体校ができるのか等、住民の皆さんが疑問に感じている部分である。
- ・この検討委員会で、小中一貫校が望ましいという方向を固めたとする。そうしたらそれを市で受け止め、予算などのより具体的なことが動いていく。来年度の10月くらいまでが、この委員会の目処だが、数年後の実施を目指して、予算計画を行っていくことが必要がある。これは見越して言っているわけであって、確約できるものではない。

【委員】

- ・前回の地域意見交換会を通して感じたことは、これからの参加者のことである。今回の小中一貫教育に関して、直接大きく影響を受けるのは、子どもや家庭であり、子どもを持つ保護者である。保護者の意見がとても大事であると思う。
- ・ある学年においては、地域で子どもが3人しかいない。それで学校はどうなるんだ、という話もある。
- ・検討委員会の中に保護者の方がいますが、意見を聞いていて、具体的かつ切実で、現実味を帯びており、とても説得力がある。
- ・小中一貫教育や学校の在り方については、保護者が直接関わるので、多くの保護者がこの問題に関心を高めて、意識を持って参加していただきたい。
- ・検討委員会参加の保護者や委員の方々も責任のある立場であるので、ぜひ呼びかけてほしい。委員20人が、1人5人集めれば100人増え、地域にすごい渦になる。
- ・前回の地域意見交換会では地域の方が非常に多く、保護者の意見は大変少なかった。
- ・子どもたちのことを考えていく学校はどうしていったら良いか、検討委員会の保護者の方には考えをいっぱい出していただき、さらに学校にも協力していただきたい。ここにいる委員の人たちだけではなく、他の保護者も参加できる体制をつくっていただきたい。

(2) 原野谷学園における小中一貫教育研究の状況について 深澤委員から状況を報告

【委員長】

- ・本当にいい実践をしている。
- ・原野谷中学校は市内で建築が最も古い中学校であり、いずれ建て替えないといけない。そこに中学校だけを建て替えるのか、それとも小中一貫で新しいかたちで建て替えるのか、意見交換の中で質問等をしてもらいたい。

(3) 小中一貫教育に対する意見交換

【委員】

- ・地域の保護者の方には、「いつか統合するだろう」という感覚があり、それがいつなのかということをつぶしを知りたい。
- ・もし統合し、その時自分の子どもが通っているなら、自分のこととして捉えるが、おそらく自分の子どもはいないんじゃないかという保護者にとっては他人事となるのは自然なことと思う。
- ・この問題を一番身近に感じるのは、未就学児の保護者だと思う。その方々がよくわかっていないということと、今学校に通っている年代の子の保護者が、人のことと捉えていることが、広がっていかないという理由だと思う。
- ・ゴールが決まっている方がもっと現実味を帯びる。ゴールが決まっているから話を詰めていかないといけないということになる。動いていくんだぞということは知ってもらった方が良い。
- ・仮に学校ができた後、子どもがいけないという心配もある。教育だけでなく、子どもが集まるような地域づくりをしていかないと、学校をつくった意味がなくなるし、住民の賛同も得られないのかなと思う。
- ・もしも学校をつくるようになったら、こんな学校になるというイメージも出していった方

が良い。

- ・学校が遠くなるということも考えられるが、遠くなると小さい子が通うということに不安も出る。そういったことも、こんな風になるということを出してもらえると、もう少しわかってもらいやすいのではと思う。

【委員長】

- ・いろいろな課題はあると思うが、それを上回るメリットがあれば前へ進みやすい。

【委員】

- ・保護者総会で集まることがある。真剣に訴えかけ、今の状況等を説明し、保護者の意見等を集約した方が良い。
- ・夜説明会があるといっても、なかなか忙しく出てきてもらえないと思うので、一番聞いてもらいたい方々が集まる場所に出向いていき、保護者の声を聞いたら、よい意見が出てくるかと思う。

【委員長】

- ・幼稚園、保育園の保護者は、これから入る学校だから切実感がある。

【事務局】

- ・現在、何年にどうなるのか等の計画はない。
- ・昨年度、中学校区学園化構想第2ステージ検討委員会において、小中一貫教育の大切さや、子どもたちの育つ環境について検討した。その中で、同じ人間関係の中では、切磋琢磨したりとか、悩んでしまう子がずっと悩みを抱え過ぎてしまう等の意見が出された。
- ・掛川市としては40年くらい前から一貫教育は子どもにとって大事と考えており、これまで一貫とまではいかななくても連携教育を続けてきた。
- ・小中一貫教育というよいものは、よりよくやりたいという思いで進めていきたい。その中で学校の在り方も一緒に考えていかないといけないと考えている。そこで地域の方の意見をたくさん聞いていきたい。
- ・一貫校のある東京では、例えば学校のプールを市民が使えたり、学校内に公民館の機能があったりする所がある。掛川においても、学校を建て替える場合、地区センター等、地域の方が子どもたちと自然にふれあえるような環境も考えていきたい。
- ・掛川市にあるたくさんの施設は老朽化してきており、そのまま維持するためには、1年間で100億円ぐらいかかる。しかし、これから税収が先細りすることも考えられる中で、そのまま維持する財政力は無い。そういう部分も考えていかなければいけない。
- ・教育委員会としては子どもたちのために一番いい教育をと考えていきたい。地域の皆様と検討しできるだけ合意を図りながら計画を立てて進めたいと考えているので、何年にどうなると、現段階では言えない。

【委員】

- ・事務局が過去に研修に行かれた学校であったり、全国の14%は小中一貫学校でやっている中、その学校はどれくらいの期間を要してできたのかということを知っておきたい。
- ・これまで40年もかけて準備をしているし、地域ぐるみ活動も一緒にやっていること等から、連携していけるとわかると思う。準備ができているのならば進めていかなければいけないと思う。数字があると強いので、他の地域ではこう進みました、という情報があると分かりやすい。

【事務局】

- ・今度の検討委員会で必要な資料を提案していただければ準備する。

【委員】

- ・10年以上前、原泉小学校が1年間かけて、地域から意見を聞き、西郷小学校と一緒になった。これを学校だけで決めたというわけにはいかない。最初は「地域の太陽だから、なんでやめちゃうんだ」といったことから話し合いが始まった。最後は保護者の皆さんが、「自分の子どもはどういう教育を受けたら、これからの世の中で生きていけるんだ」ということで落ち着いた。西郷小と一緒になった地域の大人も、「複式学

級でやっているよりも、西郷小学校に行って、大勢の仲間の中で教育した方がたくましい子どもに育つ」ということで最後に納得した。そこまで考えることに対して時間がかかる。今回、まだ話し合いが始まったばかりで、これから色々な意見が出てくる。地域の皆さんや保護者の意見をじっくり聞いていく必要がある。さらに今回は建物の話もある。

- ・普通に考えると、話し合いだけで2、3年かかり、それから予算や場所等も検討しなければならない。病院の話も10年くらいかかった。

【委員長】

- ・検討委員会をはじめ、住民の方が、先を見てしっかり考えていかないといけない。

【委員】

- ・保護者の方に色々とお知っていただくという案として提案させていただく。あんりが11年前に作ったときに、原田、みどり、和田岡それぞれの地区に行って説明会を行った。本当に自分の子どもが通っている幼稚園がなくなり、1つの幼稚園になる、保育園になるといえるときに、ものすごく関心をもって保護者が来た。
- ・今回も、あんりの保護者にはあんりで、原谷小学校の保護者には原谷小学校で、原田小学校の保護者には原田小学校で行うと良い。今の地域意見交換会では、とても大きすぎて、敷居が高くなる。
- ・保護者も自分たちのこととして考えられなかったと意見をいただいた。
- ・原野谷中校長が提示したスライドは、「こういうことをこれからこの地域でやっていくんだ、小中一貫ってこういうことなんだ」とすごくわかるものだった。各場所に出向き、教育委員会の考えを小さな中で進め、全体に広めると、保護者がもっと自分たちのこととして考えていくと思う。

【委員長】

- ・意見交換会の持ち方について何かあるか。

【委員】

- ・小中一貫教育の研究の状況を聞き、もし自分の子どもがこれから大きくなって小学校、中学校へあがって、こんな風に協力し合いながら連携し合ってやってもらえたならすごくうれしいと正直思った。そういう思いはきっと保護者は一緒だと思う。自分の子どもに充実した生活を送ってほしい、新しい環境の小学校、中学校に楽しんで行ってほしいというのが一番である。
- ・地域検討委員会で話し合ったことを、ここだけじゃなくて、保護者のみんなにも伝える場をつくってもらえたら、意見もきっと出しやすいだろう。この前の地域意見交換会の場所だと、言いたいことも言えない。小規模にしてもらえたら参加しやすく、意見も出しやすい。

【委員長】

- ・小規模な意見交換会も必要だと思う。

【副委員長】

- ・今検討していることや学校ではこういう取組をしているということを地域の皆さんに知ってもらうことも必要である。
- ・検討委員会が10月頃まで行い、ある程度方向を決めていくが、中学校をつくってもらいたい等を地域として出していくのか、ただみんなの意見だけを聞いてまとめるのか、最後どうしていけばいいのか。

【委員長】

- ・基本的には検討委員会の報告書が作られ、その報告書案を委員会で検討する。最終結論を市の方へ届け、市は要望を踏まえて教育委員会が最終的には予算取りも含めて動いていくこととなる。住民が、「ここまで話が来たのだから、作ってってもらわない」ということであれば、場合によっては署名を集めることなども他の自治体ではある。検討委員会としては報告書としてまとめていく。

【委員】

- ・検討するために細かい点も柱としてほしい。小中一貫教育に関する意見交換とするの

ではなく、もう少し絞った内容を、今後話し合いの視点として出しながらやっていくのもいいと思う。

- ・ 今日の話の中で一番大事なのは、保護者の方の、特に若い人たちの意見がうんと入らないといけない。そういう機会がとれるかどうかかわからないが。

【委員】

- ・ 中学生が職場体験に来たことがあった。体験に来た子どもは、自分から前向きになる子もいたし、言われたことしかやらない子もいた。前向きな考えできてくれる子は目つきが違う。学校でも、形だけの職場体験にならないよう、何を学んでくるのかなど教えてくれるとその子のためにもなると思う。目的を持ってくる子は、何かしらの反応がある。
- ・ 社会はいいことばかりでなく辛いこともあるんだということを教育の中で伝えていけるとよいと思う。

【委員長】

- ・ 中学生がキャリア教育をやって、非常に成果を上げていると小学生も間近でそういう姿を見ていけば、色々と伝わっていくものもあり、成果につながっていく。

【委員長】

- ・ 本日の意見交換の内容を4つほどにまとめる。
- ・ 初めに、今後の見通しについての質問が多かった。できるだけ明確な見通しを持つことは、実現につながる。道筋や年数、ゴールに至るまでの道筋、手順等をできれば知りたいということであった。これは事務局の方で、他の学校の例等あれば、調べてほしい。
- ・ 2点目に、広報や説明会に関することである。今後学校へ入学するお子さんの保護者や、現在あんり等に在籍している園児さんの保護者等への丁寧な説明が必要であり、その際の意見交換会の持ち方について、小規模で行うことが大切である、という提案もあった。
- ・ 3点目に、原野谷中学校の小中一貫教育の状況の説明において、大変成果が上がっている点である。沼津にある静浦小中一貫学校を視察して、中1ギャップの緩和等、小中一貫学校の成果が職員間で共有されその良さが認められていることや、専科の教員が小学生に対しても指導することにより、その学習効果が非常に大きいことなどが挙げられた。また、特別支援の子どもに対しても成果が見られるというような報告があり、今後の小中一貫教育に対しての理想的な姿として捉えられた。
- ・ 4点目は、学校はもちろんだが、地域に対しても地域づくりにつながるような学校施設にぜひしてほしいというような、一体型の施設形態の意見も出た。小中一貫という新しい学校が教育の中だけにとどまらず、地域との関係の素晴らしい中でのつくるということぜひお願いしたいというところである。

以上で協議を終了する。

6 連絡事項について

- (1) 第3回委員会の内容について
平成30年3月14日（水）

7 閉会